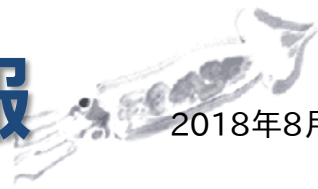


石川県漁海況情報



408号
2018年8月15日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>
携帯電話 http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html



本号の概要

大型クラゲ情報（期間：7月17日～8月7日）

- 長崎県対馬・五島・壱岐の定置網において大型クラゲの散発的な入網がありました。
- 対馬海峡等における分布水準は、引き続き低水準に留まっています。

水産総合センター・トピックス

- 「水産総合センターで取り組んでいる水産教育について」

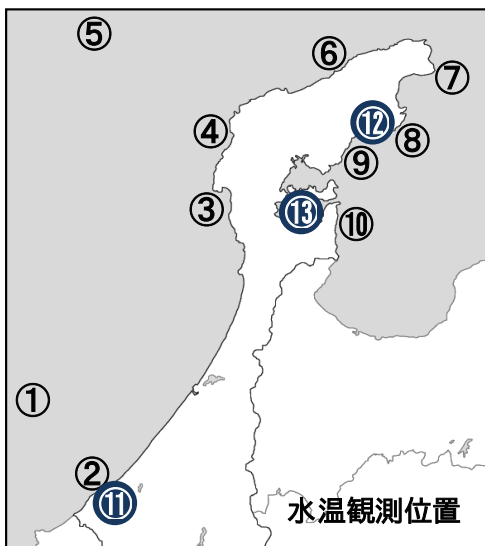
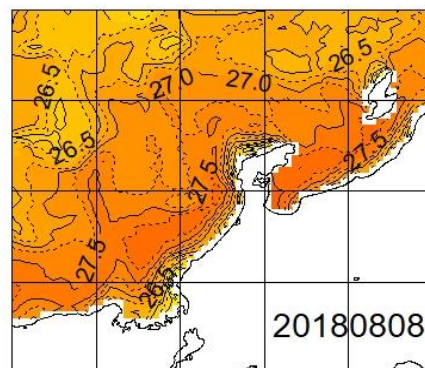
石川県周辺海域の水温（期間：8月4日～8日）

■ **沿岸の海面水温** 8月8日の本県周辺（海岸線より30海里程度）の海面水温は26～27℃台で、過去5年平均との差は-2.0～+0.5℃程度でした。

■ **沿岸観測ブイの水温** 今期の水温は25.1～26.4℃で、7月中旬から約1.7℃上昇しました。前年同時期との差は-2.0～-0.4℃、過去3年平均との差は-1.8～+0.0℃でした。

■ **港内の水温** 今期の水温は26.5～30.0℃で、前年同時期との差は-1.6～+0.7℃、過去3年平均との差は-1.3～+0.7℃でした。

石川県周辺の海面水温



沿岸観測ブイの水温（深度10mの値）

観測位置	5日間平均 8/4～8/8	前年差	過去3年 平均差
① 橋立沖	休止中	データなし	データなし
② 橋立沿岸	25.1	-2.0	-1.6
③ 富来沿岸	25.9	-0.9	-0.0
④ 門前沿岸	25.9	-0.4	+0.0
⑤ 猿山岬沖	休止中	データなし	データなし
⑥ 曾々木沿岸	25.9	-1.1	-0.6
⑦ 小泊沿岸	26.4	-0.8	-0.3
⑧ 小浦沿岸	26.3	-1.3	-1.5
⑨ 鶴川沿岸	25.7	-1.9	-1.8
⑩ 岸端沿岸	26.4	-1.3	-1.4

港内の水温（深度1.5m・午前9時の値）

観測位置	5日間平均 8/4～8/8	前年差	過去3年 平均差
⑪ 橋立港	28.8	+0.7	+0.7
⑫ 宇出津港	26.5	-1.6	-1.3
⑬ 石崎港	30.0	-0.3	-0.1

大型クラゲ情報（期間:7月17日～8月7日）

■ 国立研究開発法人水産研究・教育機構および一般社団法人漁業情報サービスセンターが8月8日までに発表した大型クラゲに関する情報は次のとおりです。

日本海 7月17～30日に長崎県対馬・五島・壱岐の定置網で傘径50～100cmの大型クラゲが1～6個体入網しました。7月19～21日に山口県長門市の定置網で傘径40cmの大型クラゲが2～5個体入網しました。8月1日に兵庫県の調査船が浜坂沖で1個体（傘径30cm）確認しました。8月6日に福岡県宗像市の定置網で1個体（傘径60cm）入網しました。

東シナ海 7月19～22日に水産研究・教育機構の調査船陽光丸で行われた大型クラゲの目視調査では、大型クラゲの出現は確認されませんでした。7月24～27日に仁川・連雲港間の国際フェリーで行われた目視調査では、青島南沖で傘径60～100cmの小規模な集団が目撃されました。上海・大阪間の国際フェリーによる目視調査でも、壱岐南沖で傘径50～70cmの小規模な集団が目撃されました。また、7月5日に東シナ海の底引き網で3個体（傘径50cm）入網しました。

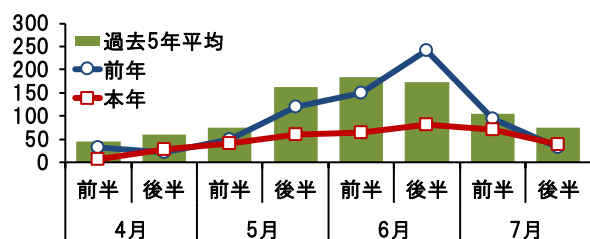
対馬海峡 7月24日に国際フェリーで行われた目視調査では、対馬海峡東水道で1個体、西水道で2個体を確認され、傘径は30～60cmでした。また、8月7日に東水道で8個体、西水道で2個体確認され、傘径は20～50cmでした。

■ 現時点での大型クラゲの分布水準は、昨年同様、低水準にとどまっており、大量出現の可能性は低いと思われませんが、対馬・五島・壱岐の定置網で散発的な入網が継続していることから引き続き注意が必要です。水産総合センターでは今後も大型クラゲの出現情報を収集・提供してまいります。大型クラゲの目視・入網情報等がありましたら、水産総合センターまでお知らせください。

石川県主要港の水揚状況（期間:7月16日～31日）

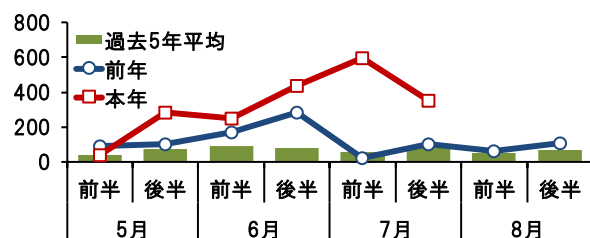
■ **定置網** マアジは36トン水揚げされました。4月前半から7月後半の累計は391トンで、前年（741トン）および過去5年平均（881トン）を下回りました。サワラ・サゴシ・サバ・フクラギ・コゾクラ・トビウオは前年を上回り、カタクチイワシ・マダイ・マイワシは前年並み、カワハギ・スズキは前年を下回りました。

単位(ト) 定置網のマアジ水揚量



■ **まき網** サバは352トン水揚げされました。5月前半から7月後半の累計は1,956トンで、前年（767トン）および過去5年平均（429トン）を上回りました。マイワシ・ウルメイワシは前年を上回り、ブリ・ガンドは前年を下回りました。

単位(ト) まき網のサバ水揚量



■ **底びき網・ごち網** 沖合底びき網のアマエビは前年を上回りました。

■ **刺網・釣り・その他** ベニズワイガニ・アカガレイ・アマダイ・ヤナギバチメ・メッキダイは前年を上回り、マダコ・アカラバチメ・イワガキは前年並みで、サザエは前年を下回りました。

集計期間 7月16日～7月31日 (漁獲量の単位はトン)

魚種	水揚港								期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年	
定置網										
さわら・さごし	8.6	0.7	37.1	20.4	0.8	2.5	1.4	71.6	59.2	
さば	0.0	0.1	0.9	52.3	1.2	1.9	7.1	63.5	12.3	
ふくらぎ・こそくら	0.9		14.9	24.0	0.8	12.8	5.0	58.3	27.7	
かたくちいわし			0.1			3.4	43.2	46.8	55.3	
まあじ	1.0	1.1	1.8	2.3	6.6	11.9	11.1	35.8	33.4	
とびうお	1.2	0.0	2.4	3.0	3.0	6.9	3.1	19.5	13.5	
まだい	0.3		1.4	1.7	0.8	5.9	3.1	13.2	15.2	
まいわし		0.2	6.6		0.1	0.8	5.0	12.7	14.0	
しいら	0.0		5.6	1.0	1.3	2.0	0.1	10.1	1.8	
かわはぎ(ウマヅラ)	0.6	0.0	1.1	1.9	0.6	0.7	0.5	5.5	8.2	
あかいか(ケンサキカ)	1.1	0.0	1.8	0.2	0.2	0.4	0.1	3.7	4.4	
ひらまさ	1.9	0.0	0.6	0.7	0.0	0.1	0.1	3.4	0.5	
すずき	0.5	0.2	0.7	0.4	0.3	0.5	0.3	2.9	5.4	
その他	0.9	0.0	6.3	1.6	0.6	11.8	21.6	42.8	27.0	
合計	17.0	2.4	81.3	109.5	16.2	61.5	101.7	389.5	277.9	
まき網										
まいわし	—		1907.1			—		1907.1	0.6	
さば	—	1.1	298.0	53.6		—		352.7	100.0	
うるめいわし	—		95.8			—		95.8	2.9	
ぶり	—	18.2				—		18.2	98.7	
がんど	—	11.9				—		11.9	284.9	
その他	—	0.3	2.2	1.1		—		3.5	302.0	
合計	—	31.5	2303.0	54.7		—		2389.1	789.2	
底びき網・ごち網										
あまえび		26.6					—	26.6	21.3	
まだい			1.9				—	1.9	2.2	
はたはた		1.8					—	1.8	0.3	
さこだい(チダイ)			0.9				—	0.9	0.2	
かわはぎ(ウマヅラ)			0.3				—	0.3	0.3	
その他		1.4	0.2				—	1.6	0.9	
合計		29.8	3.2				—	33.1	25.3	
刺網・釣り・その他										
べにずわいがに			46.0	3.5				49.5	33.7	
さざえ	1.5		3.6	16.9	2.9	4.0	2.7	31.5	42.6	
あかがれい						15.8		15.8	11.1	
あまだい	0.6	0.4	0.1	11.4	0.5	0.0	0.1	13.2	5.4	
まだこ	0.0	0.0		5.1	0.7	2.2	3.6	11.6	9.8	
やなぎばちめ(ウスマル)		0.2	0.0	8.0	0.1	0.2	0.7	9.3	2.0	
めつきだい(キダイ)	0.8	1.0	0.1	6.4	0.1	0.0		8.4	3.4	
あからばちめ(ハツメ)				6.2				6.2	5.8	
ふぐ類		0.0	3.9	2.0	0.0	0.1	0.0	6.0	4.6	
まだい	0.1	0.0	0.2	2.5	0.1	0.7	0.1	3.6	2.5	
いわがき	1.1		1.7		0.0	0.1	0.2	3.1	3.3	
その他	3.4	1.9	3.2	100.5	4.8	6.1	4.3	124.1	44.9	
合計	7.5	3.5	58.7	162.5	9.2	29.2	11.6	282.2	169.2	
総計	24.5	67.2	2446.2	326.6	25.4	90.7	113.3	3094.0	1261.5	

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

水産総合センターで取り組んでいる水産教育について

■当センターでは、調査・研究を通じ本県水産業の振興を推進しているところですが、水産業への理解や関心を高めてもらうため、小学生を対象にした栽培漁業ミニ体験教室の開催、中学生のわくわく職場体験の受け入れも行っています。

■栽培漁業ミニ体験教室を、6月下旬から7月上旬にかけて能登町立宇出津小学校4年生と穴水町立穴水小学校5年生を対象に開催しました。当センターからヒラメの生態や栽培漁業について説明したのち、小学生には、各学校に設置した水槽に当センター志賀事業所で生産した全長約5cmのヒラメ稚魚150尾を収容し給餌など約2週間の飼育をしてもらい、その後宇出津小学校は羽根海岸、穴水小学校は潮騒海岸で放流しました。



栽培漁業について学習（穴水小学校）



ヒラメ稚魚の放流（宇出津小学校）

■次に、中学生による職場体験については、能登町立能都中学校と松波中学校の2年生7名が7月23日から3日間当センターの業務を体験しました。体験に先立ち、生徒には石川県の漁業の概要、当センターの業務内容および体験業務の目的などを説明したのち、スルメイカの精密測定、乳酸菌の培養、ヒラメの黒化状況調査、マガキの幼生計数および附属施設の海洋漁業科学館で行うイカとつくり作りに使用するスルメイカの下処理を行ってもらいました。



スルメイカの精密測定



ヒラメの黒化状況調査

■この他、海洋漁業科学館では小学生を対象に能登でとれたテングサを使用して行う「トコロテン作り」や「ヒラメとのふれあい体験放流」も行いました。

■当センターでは、今後もこのような取り組みを継続しながら本県水産業への理解、関心を高めていき、さらには現在大きな課題である漁業への就業への一助になればと考えております。



トコロテン作り